



環境にやさしい学校づくり

学校版厚岸町EMS認定書交付式

4月14日、役場で『学校版厚岸町EMS（環境マネジメントシステム）認定書交付式』が行われ、町内全ての小中学校の代表8人に、酒井教育長から認定証が渡されました。

8人を代表し、厚岸小学校6年の古川さらさんが「すばらしい厚岸の自然をいつまでも守っていききたい」と宣言。

この学校版EMSは、町内の全小中学校で取り組んでおり、学校ごとに節電や節水、ごみの分別などを示して実践することで、環境に優しい学校づくりを進めています。

笑ってしゃべって元気いきいき！

元気いきいき教室

4月4日、厚岸町社会福祉協議会主催の『元気いきいき教室』が保健福祉総合センターで行われ、湖北地区在住で65歳以上の28人が参加しました。

教室ではソフトダーツで交流。普通のダーツとは違い、先端にマジックテープが付いていて安全に遊べるダーツです。8つのチームに分かれて、トーナメント戦で点数を競い合いました。大接戦となったゲームもあり、お互いにおしゃべりをしながら大いに盛り上がりました。



新たな水産業へ新施設竣工

カキ人工種苗施設等竣工式

4月17日、厚岸漁業協同組合のカキ人工種苗生産施設（若竹1）、冷蔵保管施設（同）、貯氷・冷蔵保管施設（真栄3）の竣工式が行われました。

これらの施設は、ロシア水域さけ・ます流し網漁の全面禁止に伴い、漁業者や水産関連業者の経営の安定のため、緊急対策事業として建設されました。カキ人工種苗生産施設は弁天かきの種苗を生産し、漁業者に提供する施設で、厚岸生まれ厚岸育ちのカキを増産していきます。

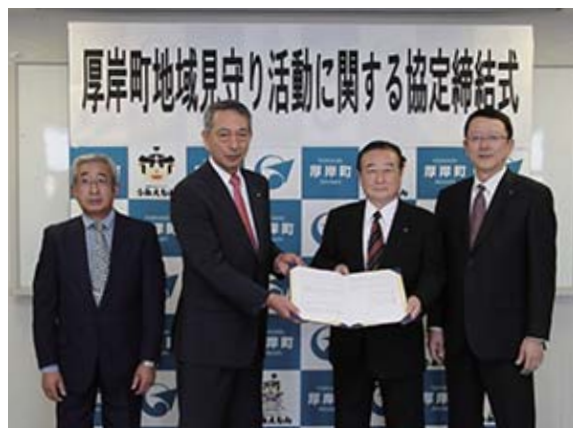


安全・安心して暮らせる厚岸に

地域見守り・災害時協定

4月6日、町内の新聞店（平良木新聞店、宮川新聞店）、道新釧路近郊会と『地域見守り活動に関する協定締結式』を役場庁舎で行いました。協定では、新聞配達中などで高齢者等の異変に気付いたときに、町へ連絡することを定めています。

この他、4日は町内6郵便局、19日は株式会社セブソーイレブン・ジャパンとの間で、郵便・商品配達等における安否確認や、災害時における物資の調達・供給等について協定を結びました。



ピカピカの1年生

入学式

4月7日、町内小学校で『入学式』が行われました。町内の新1年生は全部で64人。厚岸小学校では、ピカピカのランドセルを背負った新1年生が、保護者と手をつないで笑顔で登校しました。

真龍小学校では42人の新1年生が緊張しながら体育館に入場。お兄さんやお姉さんたちと保護者が見守る中、自分の名前が呼ばれると元気に返事をしていました。式の後は2年生が歌を披露し、同じ学びやで過ごす1年生を歓迎しました。

この日は中学校でも入学式が行われ、74人が新たな学校生活のスタートを切りました。

交通安全に気をつけて

新入生交通安全街頭啓発

4月7日、厚岸小学校と真龍小学校の新1年生を対象に『新入生交通安全街頭啓発』が行われました。

厚岸小学校の玄関前では、大沼副町長と厚岸警察署の野原副署長、交通安全指導員が「交通安全に気をつけるんだよ」と一人一人に声をかけながら、交通安全の黄色い傘などを手渡しました。

この啓発運動は、交通事故や犯罪から子どもたちを守るため、厚岸町交通安全運動推進委員会が毎年行っています。



長期実習の航海に旅立つ

厚岸翔洋高等学校実習船壮行式

4月15日、厚岸翔洋高等学校海洋資源科生産技術コースの3年生10人が、釧路中央埠頭から実習船『若竹丸』で約1カ月の長期実習の航海に旅立ちました。

出航前の壮行式では、実習生を代表して濱野蓮太さんが「学校で学んできたことを生かし、全ての実習に全力で取り組み、互いに協力していきます」と決意を述べました。

実習では洋上での船内生活や、マグロはえ縄漁を体験するほか、パラオ共和国に寄港し国際交流をする予定です。